

ガイドライン活用事例

1. 期間	令和6年7月1日～10月31日
2. 件数	5件
3. 要請場所内訳	自宅 1件 高齢者施設 4件
4. 時間帯内訳	日中時間帯 (9時～17時) 2件 夜間時間帯 (17時～翌9時) 3件
5. 通報者内訳	家族 1件 施設職員 4件

現場対応

1. 初回連絡先内訳	かかりつけ医 3件 訪問看護師 2件
2. 引き継ぎ内訳	かかりつけ医へ引継 3件 家族等へ引継 2件
3. 平均現場滞在時間	1時間11分 【参考】明らかな死亡判断事案 0時間37分

ガイドライン活用事例における救急要請時の状況

No.1	呼吸が止まりそうだったので119番通報(日中)。救急隊到着時には心肺停止状態。すぐに施設の看護師から蘇生拒否の書面があるとされた。
No.2	呼吸が止まりそうだったので家族で相談したうえで119番通報(日中)。救急隊到着時には心肺停止状態で息子が胸骨圧迫をしていた。ICの後に妻が事態を把握し心肺蘇生を強く拒否し、書面を提示した。
No.3	呼吸をしていないのを確認して119番(早朝)。救急隊到着時、施設職員がCPRを実施していた。ICの際、蘇生拒否の書面があると発覚。
No.4	呼吸をしていないのを確認して119番(夜)。救急隊到着時、施設職員がCPRを実施していた。ICの際、蘇生拒否の書面があると発覚。
No.5	呼びかけに反応がないのを確認して119番(夜)。救急隊到着時、施設職員がCPRを実施していたが、蘇生拒否の書面があると言われる。

対応救急隊が感じた課題点

No.1	施設は本運用を把握していなかったが、以前からあるDNARの形式にはきちんと対応していたため、本運用にあてはめても問題なく対応できていた。
No.2	書面に記載されていた医師名と家族が把握していたかかりつけ医とが異なっていたため、念のために両方の医師に確認を取る必要があり、CPR中止までに数分間のタイムロスが生じた
No.3	特になし。
No.4	施設管理の書面について、更新されていなかった(書面にサインした親族が他界していた)。この取り組みを行うにあたって管内の施設の協力も必要となる。
No.5	救急側・施設側ともにまだ慣れていない為、活動に時間を要してはいるがいずれ短時間で事案を終わらせることができるようになると思われる。

総括

書面を提示された5事案は全て医師に連絡が取れ、傷病者の意思に沿った対応を行うことができました。運用から約半年が経過しましたが、意思表示があるものの書面が無いことでフローチャートを進めることができなかった症例の報告はあがりません。